

経済・金融フラッシュ

No.07-061 2007/08/31

鉱工業生産 07年7月～地震の影響で輸送機械が大幅減

ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 シニアエコノミスト 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail:tsaito@nli-research.co.jp

1. 生産指数は2ヵ月ぶりの低下

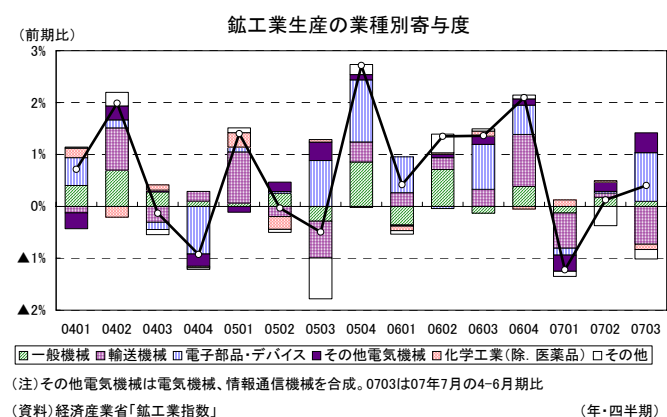
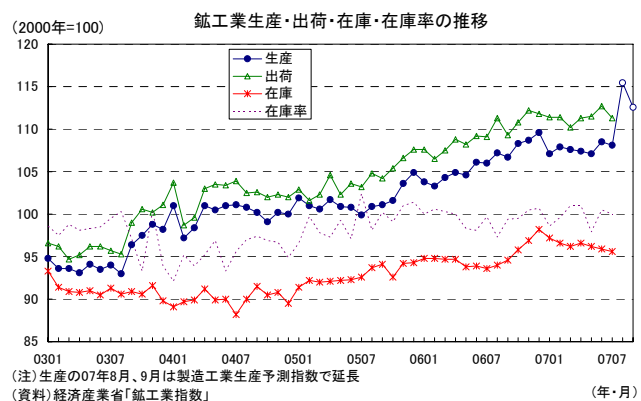
経済産業省が8月31日に公表した鉱工業指数によると、7月の鉱工業生産指数は前月比▲0.4%と2ヵ月ぶりに低下し、ほぼ市場の事前予想通り（ロイター集計：前月比▲0.5%、当社予想は▲0.7%）となった。出荷指数は、前月比▲1.2%と4ヵ月ぶりの低下、在庫指数は前月比▲0.3%と3ヵ月連続の低下となった。

新潟県中越沖地震の影響で、自動車生産が一時停止したことから、輸送機械が前月比▲7.3%の大幅低下となり、これにより生産指数は1%程度押し下げられた。

その他の業種では、化学（除、医薬品）が前月比▲1.8%、金属製品が同▲1.0%の低下となったが、在庫高止まりが続いている電子部品・デバイスが前月比4.7%、パソコンなどの大幅増産が目立つ情報通信機械が同6.2%と高い伸びとなった。

速報段階で公表される16業種中、7業種が上昇、8業種が低下、1業種が横ばいとなった。

7月の生産指数が新潟県中越地震の影響で低下することは、あらかじめ予想されていたことであった。地震の影響を直接受けた輸送機械を除けば、生産の上昇基調は維持されていると判断される。

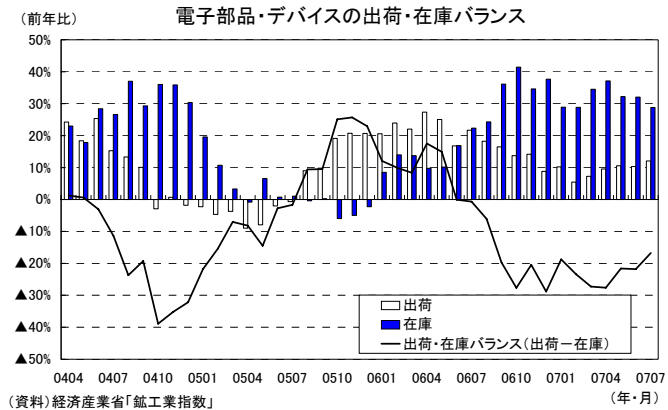


2. 電子部品・デバイスの在庫調整進展

電子部品・デバイスの在庫指数は前月比 2.1%の上昇となったが、前年比では 28.8%と前月よりも積み上がり幅が縮小した（6月：同 32.1%）。出荷は前月比 4.7%の上昇、前年比では 12.1%の上昇（6月：前年比 10.3%）となり、出荷・在庫バランス（出荷・前年比－在庫・前年比）は▲16.8%と、6月の▲21.8%から改善した。

貿易統計では、IT 関連品目の輸出の堅調さが確認されており、このことが在庫調整の進展に一定の寄与をしているものと考えられる。

電子部品・デバイスの在庫水準は依然として高いが、最終需要（出荷）が強めの動きを続けているため、出荷・在庫バランスは徐々に改善している。本格的な減産が行われない中でも在庫調整に目処がつく可能性も出てきた。さらに、それ以外の業種の在庫水準も引き続き低水準にあることは、生産の先行きを見る上で明るい材料と言えよう。



製造工業生産予測指数は、8月が前月比 6.8%、9月が同▲2.5%となった。8月の予測指数を業種別に見ると、電子部品・デバイスが前月比 9.4%、7月に大きく落ち込んだ輸送機械が前月比 22.2%の大幅上昇となっている。自動車生産は7月下旬には再開されており、7月の減産分を8月の大幅増産で取り戻す計画となっていることから、7月の輸送機械の落ち込みが一時的なものととどまることはほぼ確実だろう。

7月の生産指数と 8、9月の製造予測指数をもとに計算すると、7-9月期の生産指数は前期比 4.0%の大幅上昇となる。最近の鉱工業生産の実績値は予測指数の伸びを下回る傾向があるため、この数字は割り引いて見る必要はあるものの、7-9月期の生産指数は4-6月期の前期比 0.2%から加速する可能性が高い。